

## 岩手県沿岸漂流物分布調査結果第 2 号

岩手県水産技術センター

平成 23 年 6 月 6～7 日に岩手県漁業指導調査船北上丸で目視により宮古湾から大船渡湾にかけて漂流物の分布調査を行いましたので、その結果をお知らせいたします。

6 月に入り、大型の材木類は減少している一方、漁具類や小型のプラスチック類などの占める割合が高くなっており、顕著な潮目を中心として局在する傾向が強まっているとみられます。

表面水温は、11～13℃台で、山田湾口部から首埼にいたる広い海域で潮目が形成されていました。漂流物は、この潮目に沿って分布していました。漂流物水平分布をサイズ階級別にみると、1m 未満のサイズは閉伊湾沖から船越半島周辺に至る海域、釜石湾から首埼に至る海域、大船渡湾口部周辺で広範囲に分布していました。1～2m のサイズは山田湾、釜石湾、唐丹湾付近の顕著な潮目周辺で高密度域が認められました。2m 以上のサイズは宮古湾、山田湾、唐丹湾の湾口部、御箱崎周辺、綾里崎周辺に散在していました。

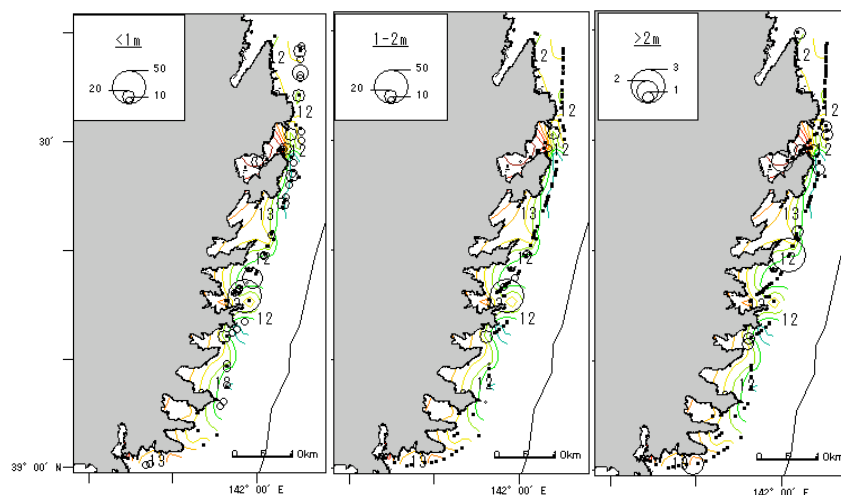


図 1 6 月 6～7 日の漂流物分布図

### 漂流物組成

観察された漂流物を、漁具類、発泡片、材木類、流木、プラスチック類、その他に大別し、それぞれの遭遇率を求めた結果を図 2 に示します。5 月 11～12 日の以降、陸上から流失したと思われる材木類は徐々に減少傾向を呈している一方、漁具類やプラスチック類の占める割合が高くなっていました。

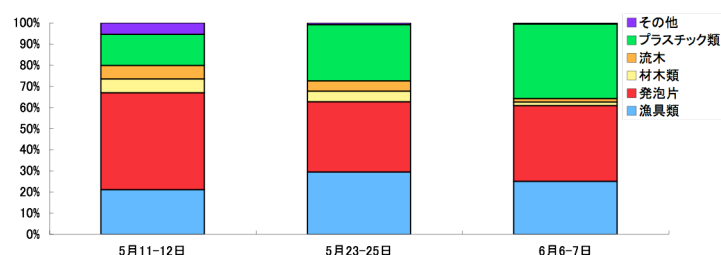


図 2 漂流物の組成

観察された漂流物のサイズ組成の推移を図3に示します。5月11～12日の以降、2m以上の大型漂流物の占める割合は低下傾向を示しており、1m未満の小型の漂流物が大部分を占めるようになってきています。

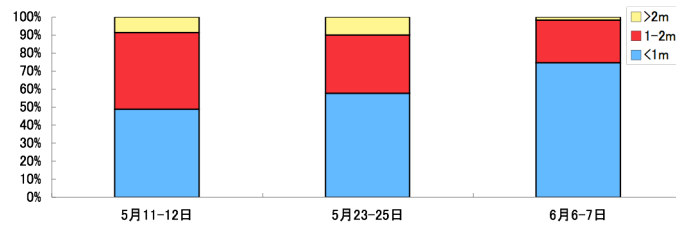


図3 漂流物のサイズ組成